

東海大学などに医史学の講座が開設されているが、いずれも公立か私立であり、このことは取りもなおさず文部省の医史学を含めた医学教育に対する無理解を如実に示すものである。

なお右の四校の医史学の講座は各々非常に秀れた業績を数多くあげられていることを申し添えておく。

5

医学教育の中における医史学の重要性については今更言うまでもなく、すでに第五十七回日本医史学会で内山会長が声明を發表し、その充実方を要望している。

以来二十余年経過した現在、医史学を講じている医育機関は増加したというものの、未だ一つの医史学講座も国立の医育機関にはないという現状をわれわれは十分に認識しなければならない。

日本医史学会の会員が全員この問題に真剣に取り組み、その実現方に尽力することを希望する。

擱筆するに際して、御多忙中にも拘らず、著者のアンケートに御回答下さった全国の医学部の学部長及び医科大学の学長の諸先生に厚く御礼申し上げる次第である。

例会記事

十月例会 十月二十四日(土)

慶応義塾大学医学部北里図書館第一会議室

一、最近影印刊行された『黄帝内経太素をめぐって』

丸山敏秋

二、眼科史―中国と日本の関係―

酒井シヅ

三、法眼土生玄碩と馬匡善太との出会

莊保忠三郎

十一月例会 十一月二十八日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、楊守敬観海堂旧蔵医籍について

小曾戸洋

―故宮博物院図書館調査報告―

昼田源四郎

二、江戸後期の精神医学

十二月例会 十二月十九日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室

一、医師免許制度(その一)

安芸基雄

―アメリカにおける変遷を中心に

緒方富雄

二、東大医学図書館に寄贈されたヒポクラテス像

三、医心方の伝写と丹波康瀬の本貫について

杉立義一

一月例会 一月二十三日(土)

順天堂大学医学部九号館二番教室

一、イブン・スリーナー(Aヴィチュンナ)に於ける

医学と哲学—『医学典範』第一巻第一部を訳して

五十嵐 一

二、真説 相馬事件

岡田 靖雄

日本医史学会関西支部秋季大会

とき 昭和五十六年十一月十五日(日)午前十時より

ところ 大阪市南区末吉橋通三 牟田病院講堂

演題

1 丹波康頼の本貫について 杉立 義一(京都)

2 越前版「俗解八十一難經・難經図」

について 岩治 勇一(大野)

3 適塾門人坪井信立とその家系 青木 一郎(岐阜県)

4 京都幕末の大医宇津木昆台について

山田 重正(京都)

5 「自準亭日新雜識」雜観

山中 太木(大阪医大)

6 斎業拙堂の種痘詩について

茅原 弘(津)

7 越後と京都の毒消し考

宗田 一(大阪大学)

8 シーボルトとラエンネックのレリーフ

中西 啓(長崎)

9 W・マクマイケル著「金頭杖」について

栗本 宗治(大阪医大)

10 医の本質・医学医療の柱は倫

三木 栄(堺)

11 「温泉」得抄」について

中沢 修(岡崎)

12 「奥羽出張病院日記」に見る戊辰役

当時の一野戦病院の実体——殊に

衛生材料薬品について 佐久間温己(西尾)

13 「弘医月報」掲載のE・ベルツの論文について

安井 広(愛知県)

14 日本皮膚科学史(II)

土肥慶蔵と松浦有志太郎 長門谷洋治(堺)

15 能登榮四郎先生の鍍銀染色法とその原点——「体系世界医学史」

(三木榮氏) 散歩 杉本 茂春(大阪歯大)

16 くすり博物館最近の収蔵資料(I)

映画観賞 くすりと日本人 青木 允夫(岐阜県)

くすり博物館提供